

夏季研修会『子どもの見方教室』 報告

7月30日(火) 第1回 「子どもの見方教室」
『子どもの見え方と支援の工夫』

第1回目は、京都府スーパーサポートセンター視覚担当の森上先生から、見えにくさの要因や弱視児の特徴、また体験的な活動も交えて講義をして頂きました。

参加者からは、

「弱視のことや、弱視児童への関わりが学べた」

「体験したことで、どう見えないのか、どのように支援すればよいかわかった」

「子どもたちを色んな視点でみたいと感じた。」

「色々な工夫をしないとしんどい思いをさせているということに気付いた」というような声を頂きました。

眼鏡を使って、白内障や視野狭窄などの体験中



盲点はどこだろう...



8月6日(火) 第2回「子どもの見方教室」
『自閉症スペクトラム障害の基礎理解と実践報告』

第2回は、宇治おうばく病院精神科医の沢井Drから、自閉症スペクトラム障害の基礎理解について、具体的に分かり易く講義していただきました。

また、宇治支援学校の校内巡回相談員が、小学部入学から高等部卒業までのライフステージに応じた、具体的な実践を報告しました。参加者からは「障害特性について幅広く話してもらい、基礎を改めて学ぶことができた。」

「目の前の子どもがどうしてそういう行動に出るのかわかった。」

「実践報告は参考になり、グッズなどを作ってみようと思った。」という声を頂きました。

好評価の感想がほとんどでしたが、中には「専門用語が多く難しかった。」「もう少しゆっくり聞きたかった。」「多くの職員が参加できるように早めに案内がほしい。」といったご意見もありました。頂いたたくさんのご意見は、来年度の夏季研修会に活かしていけたらと思っております。ありがとうございました。